

東京 2020 大会における TSM の基本的な考え方（案）

1. 目的

「東京 2020 大会の交通マネジメントに関する提言（中間のまとめ）」に基づき、今後、具体的な道路の交通システムマネジメント（TSM）の検討を進めるため、TSM の基本的な考え方（案）を以下のとおり定める。

2. TSM の基本的な考え方（案）

- TSM を効果的に実施するには、その前提として、TDM による交通量抑制が不可欠であり、TDM の効果等を踏まえ、状況に応じた段階的な TSM を計画・実施する。
- 道路種別や交通状況に応じた効果的な対策を実施する。

【高速道路】

～施策の例～

- ・料金所等における流入調整
- ・車線規制や JCT 方向別規制、区間通行止め等（事故等のイレギュラー事象時）

【一般道】

～施策の例～

- (1) オリンピック・ルート・ネットワーク上
 - ・レーン規制（専用レーン、優先レーン）、駐車対策（パーキングメーター休止等）
 - ・信号の調整、通行区分（直進・右折車線等）の見直し
- (2) 会場周辺
 - ・一定範囲内の車両通行禁止

3. その他

TSM の実施箇所やその周知方法等については、別途検討する。